

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

トーヨーエイテック株式会社 東広島工場

(2) 事業所の所在地

広島県東広島市高屋台2丁目2番4号

(3) 業種

2641 金属工作機械製造業

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25（2013）年度を基準年度とし、令和4（2022）年度から令和12（2030）年度までの8年間とする。

3 計画の基本的な方向

・基本方針

自然・資源・エネルギーを大切にし、社会や地域と調和したクリーンな事業活動による脱炭素社会及び資源循環型社会を目指します。

・行動指針

①環境法規則を遵守すると共に、事業活動による環境への影響を評価して環境保全レベルの継続的な改善に努めます。

②廃棄物の低減、エネルギー使用の抑制と脱炭素化を推進し環境負荷の軽減に努めます。

③事業活動に関する一人ひとりの環境意識を高め職場毎の自主管理による環境保全活動を推進すると共に、地域との共生を図ります。

④ライフサイクルを考慮した地球にやさしい技術と商品を創造し、脱炭素社会、資源循環型社会の実現に貢献し続けます。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成25 (2013) 年度	令和3 (2021) 年度
二酸化炭素	3,936	3,462

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成25 (2013) 年度	令和3 (2021) 年度
二酸化炭素	-	-

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成25 (2013) 年度	令和3 (2021) 年度
メタン	-	-
一酸化二窒素	-	-
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)	-	-

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25 (2013) 年度)	削減目標		目標年度 (令和12 (2030) 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO2	3,936	64.6	2,544	1,392
非エネルギー起源CO2				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方	政府の削減目標は、2030年度までにCO2排出量2013年度比46%、努力目標が50%であるが、当社は努力目標である50%削減を目標とする。 全社振分で、東広島工場排出量は全体の17.6%を排出量目標値とする。			

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100 削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25 (2013) 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和12 (2030) 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2				#VALUE!			
非エネルギー起源CO2				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量				#VALUE!			
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-		0.0	-	-	0.00
目標設定の考え方	政府目標は排出量 (t-co2) を目標値で使用しており、原単位で評価した場合、その排出量目標を達成できないことが考えられるため、原単位評価は採用しない。						

※ 削減率 (d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位 (c) = (a) / (b) 原単位見込 (g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	電力使用量の削減	原単位の年1%以上の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・高効率照明器具の導入・生産性向上活動 ・休憩時間、未使用箇所の消灯 ・エア漏れ補修等によるコンプレッサ負荷低減 ・エアロー間欠運転によるエア使用量削減
2			
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1	—	—
2	—	—
3	—	—

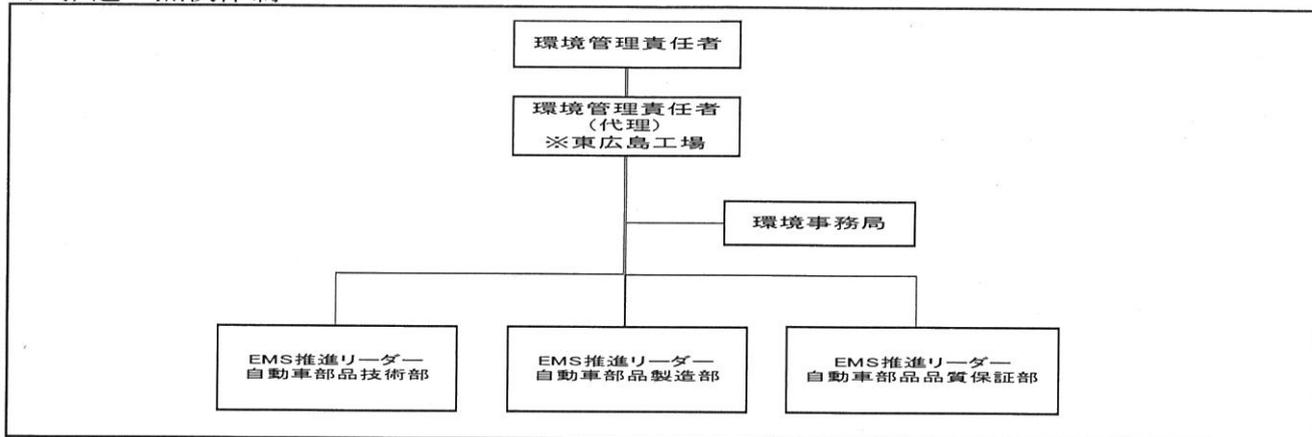
○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	廃棄物量の削減	原単位で前年度比2%の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼロエミッション ・油脂類の再利用
2	グリーン購買		<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン商品を選択肢に入れる。
3	全員参加型省エネ活動の展開		<ul style="list-style-type: none"> ・昼休みの消灯 ・定期的に環境会議を開催し情報共有する

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

環境事務局を中心として、毎年温室効果ガス削減計画の取り組み状況の把握・点検及び問題の原因究明を行い環境会議において定期的に評価・見直しなどを行い、継続的な向上を図る。また、毎年度の取り組み状況、点検・評価内容等については、計画書とともに公表する。

(3) 計画書等の公表

工場内の掲示板上にて公表し閲覧可能な状態としている。